

浦和大里小コミスクだより

令和7年度 第3号 令和8年2月吉日

春の訪れが間近となり、校庭に上着を脱いで元気に遊ぶ児童の姿が映るようになりました。去る2月5日（木）、第3回学校運営協議会が開催されました。

最終回である本協議会では、令和7年度学校評価の結果並びに校長の学校自己評価システムシートによる本年度の学校運営の振り返りと令和8年度学校運営の基本方針が主な議題として執り行われました。概要について、以下にご報告いたします。



令和7年度 第3回学校運営協議会 概要

1 学校評価の結果について

「児童・保護者・教職員」を対象とし、目指す児童像を踏まえた課題解決のための具体的な取組状況等を評価します。教頭から委員の皆様の結果について報告がありました。（紙面の都合上、主な項目のみの紹介となります。）

(1) 児童用結果より (A そう思う・B どちらかといえば そう思う・C どちらかといえば そう思わない・D そう思わない)

○「先生は、あなたのがんばったことやよいところをほめたり、はげましたりしてくれますか。」(学習関連)

＜結果＞ A61.7%、A・B計では93.7%

○「課題の解決にむけて自分で考え自分で取り組んでいますか。」(学習関連)

＜結果＞ A53.3%、A・B計で90.7%

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」(学校生活関連)

＜結果＞ A51.2%、A・B計では88.3%

(2) 保護者用結果より (A よく出来た・B 大体出来た・C あまり出来ていない・D 出来ていない・E 分からない)

○「学校は、子どものよさを見つけ、伸ばそうとしていると思いますか。」(目指す児童像関連)

＜結果＞ A53.2%、A・B計では93.7%

○「学校は、学校の取組を発信したり、保護者と地域と連携をとったりするなど、社会に開かれた学校づくりを進めていると思いますか。」(目指す児童像関連)

＜結果＞ A55.4%、A・B計では97.7%

○「学校は、地域の方々と連携したり、地域の教育資源を活用したり、学校公開をしたりするなど、社会に開かれた教育活動を展開している。(開かれた学校づくり関連)

＜結果＞ A62.4%、A・B計では97.7%

- (3) 教職員用結果より (A よく出来た・B 大体出来た・C あまり出来ていない・D 出来ていない)
- 「努力を認め・励ます」教育の実現に向けて、校務分掌を生かして取り組んでいる。」(目指す児童像関連)
　　<結果> A69.2%、A・B計では100%
 - 「地域に根差した信頼される学校づくりを推進する。」(目指す児童像関連)
　　<結果> A35.0%、A・B計では97.5%
 - 「地域の人的・物的な教育資源を積極的によりよい授業づくりに活用している。」(開かれた学校づくり関連)
　　<結果> A25.6%、A・B計では84.6%

2 学校自己評価システムシートについて

「学校自己評価システムシート」は、学校教育目標の達成に向けて校長が年度当初に示した学校経営上の重点目標に対する課題を踏まえて、評価項目と具体的方策を設定し、その達成状況と達成度、次年度への課題と改善策をまとめたものです。校長から学校評価結果を踏まえながら学校としての自己評価を説明しました。(紙面の都合上、主な項目のみの紹介となります)。

(1) 学びの質の向上に関して

○カリキュラムマネジメントデザインマップの作成と活用、教職員と児童との学習単元を通じた付けたい力の共有化等により、学校評価では、課題解決に向けて自分で考え、取り組んでいると肯定的回答をした児童が90%を超えた。次年度は、本年度の方策を継続しつつ、否定的な回答児童への支援、学んだことを活用して社会とつながる総合的な学習の時間の更なる充実、家庭学習の充実に取り組みたい。

(2) 子どもの発達や心のサポートに関する取組

○努力を認め、励ます教育で自己肯定感とチャレンジする気持ちの育成を学校運営の基本方針に掲げて取り組んできた成果がうかがえる。学校評価では、教職員が児童の努力やよいところを褒めたり、励ましたりしてくれると感じている児童が93.7%に達した。また、代表委員会による「あいさつ運動」等全ての委員会での児童のアイディアによる活動実施は、学校づくりの参画意識の向上につながった。

○児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に関して、臨時会を含めて生徒指導・教育相談部会の開催による迅速な情報共有と対応策検討等組織的体制を強化した。次年度は複数の教職員での支援体制に加え、保護者や専門機関と連携の充実を図りたい。

(3) 地域とともにある学校づくりに関する取組

○授業等教育活動での地域人材や教育資源の活用並びに総合的な学習の時間の充実により、学校評価では、地域や社会をよくするために、何かしてみたいという肯定的回答の児童が88.3%となり、特に「A そう思う」が昨年度より9%増加して、51.2%となった。

○学校運営協議会等への児童の参加や提案、地域の方々や保護者との協働活動への発展は、児童のエンジェンシー育成にとっても効果があった。今後、学校ボランティアとPTAボランティアとの連携を図りたい。

(4) 教育環境の整備に関する取組

○児童自らが生活環境を整え、安全意識を高めるために雑巾を様々に用いて清掃ができる「雑巾マスター」の取組を実施している。清掃が丁寧となり、勤労意欲もうかがえる。

○施設・設備の老朽化や不必要な物品に伴う課題に関し、資料室や体育館倉庫等の大規模整理・廃棄・整頓を計画的に実施してきた。次年度も計画的に行っていく。

(5) 教職員のキャリア形成に関する取組

- 時間外在校時間 30 時間未満を目指して、必要な会議の開催時期や時間の見直し、副担任制や研修グループ編成の工夫等により、個々の事務作業時間の確保やワークバランスの配慮に取り組んでいる。現在、時間外在校時間の月平均が 30 時間を切っている。
- 共に伸びる教職員集団づくりと資質向上に関して、積極的な公開授業、グループ研修の充実、キャリアナビや研修履歴を活用した研修奨励等に取り組んできた。学校評価では、校内研修の実施状況は適切であるとの肯定的回答が前年度比較で 19.7%増加し、94.7%の結果となった。

3 学校評価の結果と学校自己評価システムシートによる熟議について

地域グループと保護者グループの二つに分かれて、令和 7 年度の学校運営について熟議を行いました。そして、各グループから意見や感想等を発表し、全員で共有を図りました。

地域グループです。



- 育成会では、伸びよう、伸ばそうを合言葉に健全育成に努めているが、報告を受けて、活動が学校の学びにつながるとよいと感じた。家庭や地域と学校の願いや期待が重なると児童のよりよい成長につながる。
- GIGA の成果は直ぐに現れると思わないが、アプリの種類や利用の仕方、学習の評価方法が気になる。また、平仮名や漢字等の文字をしっかりと書けるのか、心配である。
- 読む・書くが基本と考える。今後どのように授業を行っていくのか、関心がある。
- 現在、広く私立小・中学校受験も可能であるが、浦和大里小は公立学校としての学力を身に付けることが大切である。
- 授業中に自分で考えることは重要と分かった。児童がそれを話す、説明するなどのプレゼンテーション力を身に付けることが、社会で必要となっていると感じる。
- いわゆる不登校の児童数を知りたい。また、Sola ルームの活用方法を今後工夫してほしい。
- 11月のあいさつ運動に参加したり、学校ボランティアとして活動をしたりして感じたことは、あいさつ運動もボランティア活動も継続してほしいことである。では、どう広めていくか。経験して広めていくことが第一と考える。このことは、児童からの宿題である。

保護者グループです。



- 学びの質が変わって学び方も変わったが、今後は学習の成果をどのように評価していくのか、課題となると考える。
- 不登校児童の支援等の仕組みは学校で整備された。保護者のアプローチが大切と捉えて、PTAの事業として来年度メンタルトレーニング研修の実施を考えている。
- 登校時に校門で校長が児童に声を掛けているのを見かける。浦和大里小の教職員の皆が同じように児童に接していると考える。
- PTA 本部では、登校時の保護者の旗当番制を廃止し、自主的なボランティア募集制にしたが、非常に少ない。防犯ボランティアの現状を考えても、保護者の見守り旗活動は増やさなければならぬので、義務化について検討している。
- PTA 活動のボランティアに関しては、アプリで応募できるようにシステム化し、活用できている。学校のボランティア募集と連携できるようにしていきたい。
- 教育環境や安全に関する事項は、言語化して具体的な行動に進められるとよいと考える。
- 教職員の時間外在校時間月平均が減少していることは、社会的によいことである。休みを取りやすい環境づくりを進めてほしい。

4 令和8年度の学校運営について

協議会の最後の議題として、来年度の「学校運営に関する基本的な方針」について、校長から以下のとおり提示され、委員の皆様から仮承認されました。

(1) 学校経営に関すること

- 子ども・学校・保護者・地域が参画し、Well-beingな学校をつくる。
- 認め、励ます教育で「自己肯定感」とチャレンジする気持ちを育む。
- 学ぶ楽しさを味わう授業と学び方の指導で「自ら学ぶ力」を育成する。

(2) 組織の編制に関すること

- 協働意識を高め、児童に関する情報を共有し、「抱え込み」を排除する。
- 「報告・連絡・相談・見届け」の徹底により、組織的対応を充実させる。
- 研究組織を活用して、教育委員会と連携しながら、教職員間で切磋琢磨できる人間関係をつくる。
- キャリア段階を踏まえ、職員一人ひとりの強みを生かした分掌組織を編成する。

(3) 教育課程に関すること

- 文部科学省「教育課程柔軟化サキドリ指定校」の研究委嘱を受け、付けたい力を明確にしたカリキュラムマネジメントに取り組む。
- 新しく配備される一人一台タブレットを活用し、個別最適で協働的な学びを充実する授業の実践と、学び方の指導の研究をする。
- 外部人材と連携し、児童の課題解決のプロセスを重視した総合的な学習の時間に取り組む。
- 教員の指導力向上のための研修を充実させる。

(4) 予算の執行に関すること

- 予算委員会を実施し、適正に、計画的に予算を執行する。
- 子どもの安心・安全を最優先に予算を執行する。

(5) 施設及び設備の管理に関すること

- 安全で快適な学校生活を送れる環境を整備する。
- ICT環境の充実を図り、積極的に活用する。
- 計画的に営繕工事要望を提出する。

5 その他

校長から来年度の計画として、以下の報告がありました。

- (1) 児童用タブレットの新規入れ替え
- (2) 体育館冷房設備設置工事（7月～9月の予定）

なお、当日は、前回同様に会議の前後を利用して授業や休み時間の学校の様子をみて回るとともに、給食時間に児童から招かれ、教室で会食をしました。

また、協議会開会前には、5年生代表児童10名から「総合的な学習の時間」で取り組んでいるSDG'sに関する地域や世界への提言と発表会の予定について発表がありました。

さらに、「第3回いじめ防止対策委員会」を開催し、学校からは、いじめの認知件数と解消の状況・教職員および児童等の発見や報告数の増加・懇談会等を活用した保護者との協力体制づくり等について説明があり、早期発見と早期対応並びに学校と家庭との連携・協力の重要性を、出席者全員で改めて確認しました。